

海域の概要

本湾は、三陸海岸に存在する湾で、湾内にはオランダ島と呼ばれる島があり、海水浴場になっています。湾全体が山田町に存在し、湾内ではカキ・ホタテなどの養殖漁業も盛んです。



Specification

諸元

湾口幅：3 9 4 k m

面積：3 1.9 6 k m²

湾内最大水深：9 0 m

湾口最大水深：9 0 m

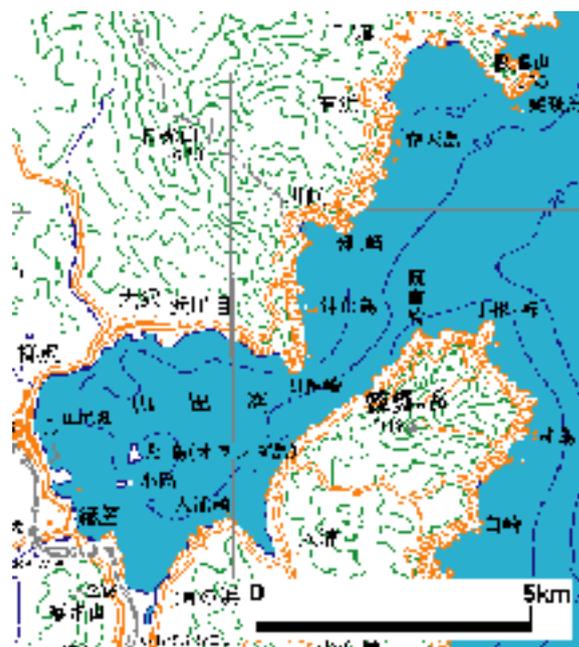
閉鎖度指標：1 4 3

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

岩手県宮古市根滝三角点(北緯 39度 31分 17秒 東経 142度 3分 40秒)と下閉伊郡山田町小根ヶ崎を結ぶ線及び陸岸により囲まれた海域。

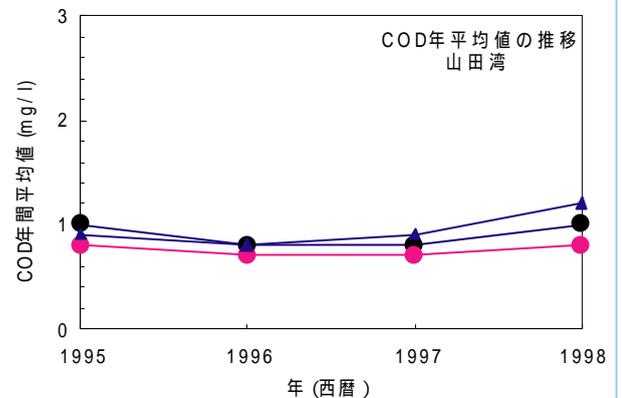


環境

比較的閉鎖的な環境にある湾ですが、顕著な水質悪化は見られません。

COD年平均値の経年変化をみても、概ね1mg/l程度で推移しています。

底質は、岸付近は岩礁または砂質ですが、湾央の広い範囲は泥質となっています。



自然

山田湾は、周囲約30kmのほぼ円形の湾で、その穏やかな海面に浮かぶ大島、小島とまるで大きな箱庭を思わせ「海の十和田湖」という愛称がついています。

山田湾の代表的な眺望は、六角塔付近と織笠大橋から見る風景で、六角塔からは、本町のシンボルともなっている養殖いかだがいざしり並ぶ景観が見られます。織笠大橋からは、右手に霞露ヶ岳、左手に十二神山、中央に浮かぶ大島、小島のパノラマとなり、春には潮干狩り、夏には鯨カヌーレース、秋には大杉神社祭り、冬には六角塔から見た養殖いかだサケの1本釣りが行われ、町民に親しまれています。

藻場は、湾北部の熊ヶ崎周辺や湾奥の岩礁にコンブ、ワカメ、ホンダワラ類の藻場が分布する他、湾南部の浦の浜地先には、アマモ場が広がっています。



文化歴史

1643年、嵐に遭遇して水と食料を求め、オランダ船「レスケンス号」が山田湾に入港しました。当時の人々が船員をもてなした事から、オランダとの交流が始まり、山田湾に浮かぶ「オランダ島(大島)」は国際交流のシンボルとなっています。また、山田町は、かつて捕鯨基地として栄え、豊かな海の恵みを受けてきました。山田町の姿を後世に伝え、巨大マッコウクジラを残すため「鯨と海の科学館」が作られました。

産業

山田湾ではカキ、ホタテ、ワカメ、コンブの養殖が盛んで、特産品としてこれらの水産加工品のほか、イカイクラ・ウニも加工され、販売されています。